

「赤レンガ」

【平成30年度・第3号(秋号)】

発行:倉敷市立市民病院広報委員会・地域医療連携室

発行月:平成30年10月



～倉敷市立市民病院 基本理念と基本方針～

<基本理念>

- ・市民に信頼される地域の中核病院を目指す。
- ・人間味あふれる温かな医療を実践する病院を目指す。

<基本方針>

- ・市民が利用しやすくかつ患者中心の良質な医療を公平に提供するよう努める。
- ・地域の中核病院として市民のニーズに応え、初期・二次救急医療、小児の夜間救急の充実に努める。
- ・採算性を求めることが困難である救急医療、周産期医療、小児医療を提供し、公立病院として地域医療の確保に努める。
- ・市民の健康保持と福祉の増進を図るため、予防医療の充実に努める。
- ・地域医療の向上のための病診連携を図り、病床の一部を開放病床とする。
- ・病院の健全経営に努め市民の信頼に応える。
- ・疾病構造の変化に対応し得る医療体制の整備に努める。

<目次>

- | | |
|----------------------|-----------------|
| ・ 当院基本理念・基本方針 | ・ 医療トピックス1 |
| ・ 医療トピックス2 地域連携担当者の会 | ・ 新入職員紹介 |
| ・ 栄養だより | ・ 特別養護老人ホーム 王慈園 |



医療トピックス

～麻酔科について～

麻酔科 診療部長 竹久 紫乃

麻酔科の竹久と申します。2018年4月から、倉敷市立市民病院に勤務しております。

これまでは岡山大学病院から週1回、麻酔医が派遣され、それ以外の日は外科系の医師が麻酔を担当していました。当院に麻酔医が常駐となるのは初めてのことです。主に全身麻酔と、帝王切開の麻酔を担当しています。

◆「常勤の麻酔科医がいると何か違うの？」

患者さんにはあまり違いを感じていただけないと思います。麻酔薬や生命維持装置が進歩したので、心臓手術や新生児など高度医療の手術以外では、一定の訓練を受けた医師が麻酔をすれば安全性に大きな差はありません。（これは今後の麻酔学の課題でもあります。）むしろ、手術をする医師の負担が軽くなり、手術に専念できるようになるのが最大の利点だと思います。麻酔を担当する人手が足りないために、緊急手術の必要な患者さんを他の病院へ転送せざるを得ないこともあったそうですが、これからは当院で手術しやすくなるでしょう。麻酔医との打ち合わせを行うことで、術前準備の負担も軽くなると思います。このように執刀医が手術に専念できることで、患者さんには直接感じていただけないまでも、利益があるだろうと思います。

◆「ペインクリニックはやってくれないの？」

当面、麻酔で手一杯になり、臨時のご相談に応じられないので、ペインクリニック外来はできません。院内のご相談にはできる限り応じる予定です。近隣のペインクリニックへのご紹介は行います。

◆「持病があるのですが、市民病院で手術して大丈夫？」

慢性透析の患者さん、重症な心不全や不整脈の患者さんなど、特別な準備や、急変時に専門医による診療の必要な患者様には、当院では対応しかねる場合もあります。当院での麻酔管理が困難だと判断した場合は、担当医師と話し合い、対応可能な病院にご紹介します。

手術の苦痛を軽くするとともに、手術前から術後の患者さんの安全をお守りするよう精進いたします。麻酔についての心配や疑問にはできる限りお答えしますので、お気軽にお声を掛けていただければ幸いです。今後とも宜しくお願い致します。

～「児島地区連携担当者の会」紹介～

厚生労働省は、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進しています。



この実現には、地域で医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が必要になってきます。そこで、児島地区では医療機関の連携を図り、医療支援が地域で円滑に行えるよう、児島医師会様のお声かけの元、昨年より医療機関の連携室担当者が集まり、定期的に意見交換、交流を行っております。回を重ねる中で、介護施設の担当者の方にも参加頂き、医療と介護の連携も図れる会として活動しております。9月27日には、第6回を開催し「医療・介護連携シートについて」と題して、阿部泰昌先生にご講演を頂きました。

今後も、児島地区の医療・介護の連携が円滑に図れ、より一層地域の皆様が、医療や介護が必要になっても安心して暮らせる地域づくりのお役にたてるよう活動を続けていこうと考えております。

地域医療連携室 主任 深井 裕一郎

新入職員紹介

医局 内科医長 出口 静吾

10月より倉敷市立市民病院内科に着任しました。内科全般を幅広く担当してまいります。病気の早期発見・早期治療を目指したいと思っております。加齢に伴い増加してくる高血圧症、糖尿病、脂質異常症といった生活習慣病をはじめ、様々な内科疾患に向き合う姿勢などのアドバイスも随時行いたいと考えております。少しでも当地域の皆様のお役に立てるよう頑張っておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

看護部 助産師 小山 衣理

この度、10月1日より入職致しました小山と申します。患者様に寄り添った看護をしていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

看護部 看護師 倉田 美香

10月1日より入職させて頂きました倉田と申します。倉敷中央病院で18年、玉野市民病院で4年半働いていました。生き物が好きなので家事は親に甘えて猫とメダカの世話だけしています。新しい環境で覚えられないこともたくさんあると思っておりますが、宜しくお願い致します。

看護部 看護師（皮膚・排泄ケア認定看護師） 塩見 祐子

10月より入職しました。東北新幹線と錦鯉の飼育にはまっています。初々しさはないですが、新鮮な気持ちで頑張ります。宜しくお願い致します。

看護部 看護師 虫明 里穂

10月1日から採用になりました、虫明です。以前は産婦人科に勤めていました。食べるのが好きで焼肉とラーメンが特に大好きです。仕事終わりに食べるラーメンが特に最高です。おいしい物を食べてエネルギーチャージして毎日仕事に全力で頑張っていきたいと思っております。宜しくお願い致します。

看護部 看護師 有馬 千絵

10月1日より入職させて頂きました。いつも笑顔で患者さんと家族の方に寄り添った看護をしていきたいと思っております。宜しくお願い致します。

薬剤部 薬剤師 石合 綾乃

薬剤師の石合綾乃です。本年6月より嘱託職員として調剤業務に従事しておりましたが、この度改めて正規職員として採用させて頂きました。今年の春に薬剤師免許を取得したばかりで、まだまだ経験も浅く、至らない点も多いかと存じますが、精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。

栄養だより

「インフルエンザ・かぜ予防のカギは腸内環境！！」

毎年冬に猛威を振るうインフルエンザですが、今年は9月頃にインフルエンザによる学級閉鎖のニュースを聞きました。倉敷ではまだ流行していませんが、これからは特に注意が必要です。

寒くなる時期には私たちの活動量が減り、免疫力が落ちることで、インフルエンザ・かぜにかかりやすくなっています。手洗いやうがいを徹底して予防することはもちろん大事ですが、感染しにくい抵抗力のある体づくりも重要です。



☆抵抗力のある体をつくるために、免疫力を高めましょう。

免疫力とは、免疫細胞の強さのことです。免疫細胞には体内に入った細菌やウイルスを撃退する働きがあり、70%が腸内にあるといわれています。免疫力を高めるためには免疫細胞の材料になっているたんぱく質をはじめ、抗酸化力の高いビタミン類などを十分にとるとともに、腸内環境を整えることが大切です。



☆腸内環境を整えるためには発酵食品や食物繊維が有効です。

【発酵食品】



ヨーグルト

腸内環境を整え新陳代謝を活発にする。乳酸菌は免疫細胞を活性化するので免疫力アップの効果が期待できる。



納豆

強い抗菌作用があり、0-157やサルモネラ菌の感染も予防すると言われている。腸内の悪玉菌を減らすことで善玉菌の増殖を助ける。



みそ

抗酸化作用があり、免疫細胞の老化防止が期待できる。

【食物繊維】



緑黄色野菜

食物繊維とともに多く含まれているビタミン類には抗酸化作用や解毒作用がある。



きのこ類

食物繊維とともに免疫細胞を活性化するβ-グルカンを多く含む。

♪おすすめレシピ♪

《キムチ鍋・みそ味》



(作り方)

- ① 材料をそれぞれ食べやすい大きさに切る。
- ② フライパンにごま油を熱し、すりおろしたんにんにくを加えて豚肉を炒める。
- ③ 鍋にスープを作り沸騰したら、②を加え火の通りにくい材料から順に入れる。
- ④ 最後にキムチとみそ・すりごまなどを加えて味を整える。

～寒い夜には具材たっぷりのお鍋で温まりましょう～

(2人分の材料)

豚肉スライス 100g 豆腐 100g 油揚げ 20g
人参 30g 白菜 200g キムチ 60g えのき 40g
しめじ 30g しいたけ 20g ニラ 40g ごま 2g
にんにく少々 みそ大さじ半分 ごま油小さじ1強
(スープ)：だしのだし素小さじ1 水 200ml

(1人分の栄養量)

エネルギー:258kcal 蛋白質:20g、脂質:14g
食物繊維:5.7g 食塩相当量:2.8g

社会福祉法人 王慈福祉会

特別養護老人ホーム 王慈園

施設長 松尾 隆司

社会福祉法人 王慈福祉会は平成 7 年から児島琴浦地区を拠点に地域の皆様のご支援により今日まで事業をおこなってまいりました。

「こころゆたかに、すこやかに」を理念に生まれてきたからには、誰もが幸せに満ちた人生を歩んで欲しい。そのために私たちは、お手伝いしていきたいと考え、お子様、お年寄り、障がいを抱えた方、すべての方が心豊かにすこやかに日々の生活を送れるように応援したいという思いで高齢者施設以外にも障がい者、児童サービス等を担っております。そして平成 27 年に岡山県初複合型施設 ベネヴィータ王慈を開設いたしました。

住み慣れた地域で、これからも生活していく事ができるように真心を込めて支援させていただくことを心がけています。つらいときも、楽しい時も寄り添っていく。多くの方々にやすらぎのある生活を提供していきたいと考えています。多様化する社会の中では、様々な場面で転機を迎える場面があります。介護が必要となる時もそのひとつだと思います。心配な事があれば、いつでも気軽に相談ください。

この度は、広報誌の貴重なページでご紹介いただき誠にありがとうございます。これからも児島地区で連携を図り、皆様のお役に立てますよう尽力してまいります。



住所：倉敷市児島下の町 5 丁目 2 番 17 号

TEL：086-473-9000

担当：久米・尾藤

発行者：倉敷市立市民病院 住所：〒711-0921 倉敷市児島駅前2丁目39番地

TEL：086-472-8111 (代表) FAX：086-472-8134 (連携室直通)

<http://www.city.kurashiki.okayama.jp/kojimahospital/>